



題字 會津 八一

発行所 新潟日報社

〒950-8535

本社 新潟市中央区万代3-1-1

〒950-1189

黒埼本社 新潟市西区善久772-2

オピニオン

NPO法人「絵本で子育て」センター(兵庫県芦屋市)の理事長として全国を駆け回る。「読み聞かせは、親が子どもに愛を伝えること」。講演会で子育てに悩む親たちに優しく語り掛ける。一方で「絵本講師」の養成にも

力を入れる。講座の修了生は本県にもいて、絵本の魅力を伝える活動が広がっている。講演会のため、初めて本県入りした森ゆり子さんに「絵本力」について聞いた。

(論説編集委員・岩本潔)

聞

■絵本の読み聞かせは、子どもたちにどんな影響を与えるのでしょうか。絵本は家庭に生の言葉を取り戻し、リアルな親子関係をつくりまします。子どもの気持ちに反応しない一方通行のメディアであるテレビやビデオとは違います。例えば「ちびこりらのちびちび」(ルース・ボーンスタイン作)では、「大好き」というせりふがたくさん出てきます。読んでもらった子どもは、自分が親からそう言ってもらった気持ちになります。

「絵本で子育て」を推進

森 ゆり子さん NPO法人理事長 兵庫県芦屋市・62歳



もり・ゆりこ 広島県出身。会社勤務などを経て、2004年NPO法人「絵本で子育て」センターを設立、絵本講師・養成講座を開講した。著書に「絵本を読みましょう」(同センター刊)。日本子どもの本研究会会員。

読み聞かせ 愛を伝える

教えてください。おなかの中にいるときから読んでほしい。生後2カ月にすると、赤ちゃんは絵本の意味が分からなくてもリズムに反応します。育児書に「子どもに話し掛けて」とあっても、何を言っているのかわからない

いと悩む親もいます。だからまずは絵本を読んであげてほしい。過剰な演出は避けて、自然にゆっくりと読んでください。心が伝わりまします。

■現在の子どもたちを取り巻く環境をどう感じていますか。今の子どもたちは競争ばかりで過酷な時代を生きているように見えます。ある講演

会で「はやくはやくといわくくらいありますが、お薦めでないで」(益田ミリ作)を読めるのは数冊です。桃太郎がんだら、30歳ぐらいの女性なせ、鬼退治に行かなければが号泣しました。厳しい家ならないのかという過程をきがないといひます。「ゆっく

い。省略ばかりの絵本では子どもの心を育めない。本を手りでもいいと、受け止められにた気持ちになった」と言わ

います。自分の子どもが落ちこぼれてはいけなと思うあまり、親と子の気持ちのギャップが大きくなった。だからこそ、いい絵本を選んで楽しい時間を過ごしてほしいと感じています。

■絵本講師・養成講座は11年目になりますね。子育てにどうして、いかに絵本の読み聞かせが必要かを学び、それを語り伝える人材を育てたいと考え始めました。これまでに約1200人が修了しました。若い親の手助けをしないと「絵本で子育て」を訴えてきましたが、講座を通じてその活動を全国に広げていきたいと思っています。

インタビューを終えて 柏崎市で今月開かれた森さんの講演会を取材した。参加者の中に涙を流している女性がいた。2人の幼い子どもがいる母親だった。声を掛けること「森さんのように優しく読み聞かせをしているか、反省しました」と話してくれた。育児は毎日、毎日続く。肩の力を抜いて、読む側も絵本を楽しんでほしいと思う。